

「えひめ食・観光・農林漁業プラットフォーム」 第1回講演会・ワークショップ開催レポート(2025 年 8 月 27 日開催)

愛媛県では、地域課題解決と経済活性化を目指し、多様な主体が連携・協働する「えひめ版政策エコシステム」の構築を進めています。その取り組みの一環として、第 1 回講演会・ワークショップを 2025 年 8 月 27 日(水)に開催しました。



1. 第1回講演会・ワークショップの概要

- 日時: 2025 年 8 月 27 日(水)13 時 30 分～17 時 00 分
- 場所: 愛媛県視聴覚福祉センター 4階多目的ホール
- 一般参加者数: 53名

2. 「えひめ版政策エコシステム」とは

県、市町村、民間企業、市民団体、学術機関など多様な主体が企画段階から連携・協働することで、持続的に新たな価値を創造し、戦略的な政策立案・推進につなげる仕組みです。以下の 2 層構造で構成されています。

- 第 1 層「プラットフォーム」: 多様な関係者が集い、情報共有や学び、マッチングを通じて、「広く議論する共創の場」。
- 第 2 層「アクションラボ」: 第 1 層の議論から得られたアイデアや課題をもとに、特定のテーマに絞ってビジネスや政策の創出を目指す「具体的な議論を深める場」。

3. 講演会・ワークショップの目的

7 月 4 日に開催されたキックオフミーティングで出された多岐にわたるアイデアをより具体化・具現化する「きっかけづくり」として開催しました。官民共創の取り組みを具体化するステップとして、参加者がアイデアをブラッシュアップし、その実現可能性を高める機会としました。

4. 当日のプログラム

- 第 1 部: 講演会
 - 演題: 愛媛発・田んぼと発酵の力～地酒を核に拓く、未来産業と地域経済～
 - 講師: 山本 洋子 氏

(プロフィール)



鳥取県境港市「ゲゲゲの妖怪の町」生まれ。

(株)オレンジページで雑誌編集長として、玄米雑穀、発酵調味料、米の酒など日本古来の食の良さを紹介。独立後、地方に埋もれた「日本の食のお宝！応援」をライフワークに、講演活動や酒と食文化のジャーナリストとして全国へ。モットーは「1日1合純米酒！」。

週刊ダイヤモンドで「新日本酒紀行 地域を醸すもの」を 9 年間連載し、365 歳を紹介。

著書『厳選日本酒手帖』『厳選紅茶手帖』『ゼロから分かる！図解日本酒入門』(世界文化社刊)。

境港 FISH 大使。政府委員・地域力創造アドバイザー

○ 講演内容

講演では、山本氏のモットーである「一日一合 純米酒！」を掲げ、純米酒の消費拡大が減反解消や田んぼの環境保全、生物多様性の維持に寄与するという視点が示されました。

また、北海道の上川大雪酒造による官民連携による地域再生、秋田の「稲とアガベ」によるクラフトサケを通じた地域活性化と多角的事業展開、滋賀のハッピー太郎醸造所による地域特産品を活用したどぶろく造りなど、全国各地の先進的な事例が紹介されました。

日本酒を単なる嗜好品としてではなく、農業・林業・漁業・窯業など多様な伝統産業や地域文化を結びつける「メディア」として捉えることの重要性が強調されました。

さらに、地域住民が主体的に参画する取組(例:発酵ツーリズム)の推進が、地域の社会課題解決と持続可能な未来づくりに不可欠であることにも言及されました。



● 第2部:ワークショップ

○ 進め方

少人数のグループに分かれ、これまでの取り組みや講演から得たインスピレーション、「やってみたいアイデア」などについて自由に話し合いました。

○ ワークショップで出た主なアイデア(グループ発表より抜粋)

地域資源や暮らしに根ざした多様なアイデアが出されました。

- ・ 愛媛の食材や文化をストーリーや背景を交えて伝える。栄養学の創始者が愛媛出身であるという情報も活用
- ・ 愛媛ならではのまだ知られていない食資源を発掘・紹介
- ・ 地域の強みやユニークな言葉・キーワードを活用した発信(例:河野氏、ジャバラなど)
- ・ 魚と異業種を組み合わせた体験型観光(漁師体験、加工体験など)
- ・ ペットと一緒に宿泊できる旅の提案や、空き家を活用した「お試し移住」の仕組みづくり。

- ・クラフト古民家での宿泊・飲酒体験(泊まれる・飲める体験)
- ・廃棄物や「もったいない」資源を活用したシステム構築(もったいないサミットなど)
- ・柑橘をテーマにした「柑橘ミュージアム」や「柑橘動物園」の創出

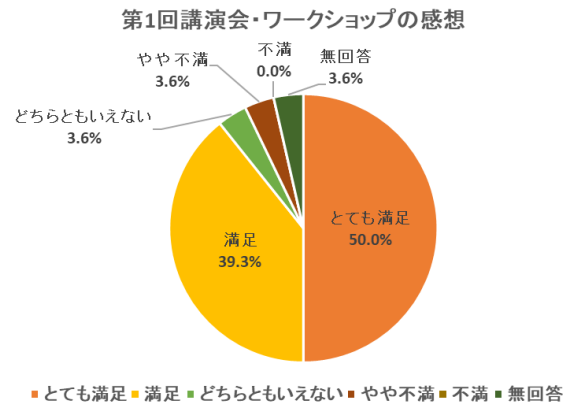
など



5. 参加者アンケート結果

<本日の講演会・ワークショップの感想>

- ・「とても満足」が 50.0 %、「満足」は 39.3%と、約 9 割の方が満足と回答しています。



<本日の講演会の感想(一部抜粋)>

- ・「お酒を通じて一次産業や地域経済を支えるという視点が興味深かったです。」
- ・「発酵ツーリズム東海の事例など、地域連携の可能性を知ることができ参考になりました。」
- ・「地域を伝える手段としての『お酒＝メディア』という視点がとても印象的でした。」
- ・「テンポ良く情熱的なお話で、引き込まれました。」
- ・「専門的な内容を分かりやすく語っていただき、楽しく聴講できました。」

<ワークショップでの気づき・意見(一部抜粋)>

○新しい価値・発想への気づき

- ・「生産者と消費者をどうつなぎ、新しい付加価値を生み出すか、多くの事例から学ぶことができました。」

- ・「日常が魅力になる」というキーワードが特に印象的でした。」
 - ・「移住者や旅行者の方が地域の日常に強い感受性を持つという視点が新鮮でした。」
- 交流・ネットワークづくり
- ・「異業種の方と気さくに意見交換ができ、新たな横のつながりを得られました。」
 - ・「それぞれの立場で持つスキルやネットワークを知る機会となり、今後に活かせそうです。」
 - ・「名刺交換や前回とは異なるメンバーとの出会いなど、交流の広がりを実感しました。」
- 具体的なアイデア・やってみたいこと
- ・「行政・民間・地域が連携した新しい事業を立ち上げてみたい。」
 - ・「近隣自治体と連携したキャンペーンや全国規模のイベントなど、中長期的な取組みを形にしたい。」
 - ・「伝統的酒造り」をユネスコ無形文化遺産として広める動きに触発され、日本酒文化を海外へ発信したいと思いました。」

6. 今後の展望とアクション

● 体験観光に関する勉強会の開催

キックオフミーティングやワークショップで出た意見を具体化するため、テーマを絞って深掘りする「勉強会」を随時開催予定です。

初回は体験型観光をテーマに、令和 7 年 9 月 25 日(木)13:30～、男女共同参画センター多目的ホールにて開催します。

講師には、四国ツアーズ株式会社の地域コーディネーター 出尾宏二氏を招き、資源の磨き方やマネタイズ、サステナブルツーリズムなどを共に学ぶ機会とします。

● 継続的なワークショップの開催

10 月、12 月、2 月頃にもワークショップを開催予定。2026 年 3 月頃には成果報告会が実施する計画です。